

第四十一日目

師 範：イギリスで清教徒革命に続いて起こった市民革命・名誉革命を覚えましょう。

1688年というから、清教徒革命の40年後ということになります。



清教徒革命で、王政が廃止され共和政になりましたが、1660年に王政が復活しました。

血を流すことなく議会の地位が確立したので、名誉なことであるということで名誉革命といいます。

イギリスにおける市民革命の仕上げになりました。

1688年 名誉革命がおこる。

この年を覚えましょう。

コン太：こんなのはどうでしょうか。



「イギリスに広く早まる名誉革命」

「ひろく」は16, 8は「は」とも「や」とも読みます。

師 範：語呂はよく、革命のようすもうまく伝えていきますね。

なかなかよくできています。

まいりました。



師 範：翌1689年に成立した権利の章典では、「国王といえども議会の同意なしに政治を行うことはできない」という議会政治の原則が確立しました。

国王・教会・貴族・僧侶・大地主・特権商人などの勢力と、都市や地方の地主・独立経営の農民・商工業者・市民・清教徒らの勢力との戦いは、イギリスでは17世紀を通じて戦われてきました。

しかしイギリスでは、権利の請願、清教徒革命と名誉革命、権利の章典によって、国民代表による議会の場で討議と採決を経て、政治や政策の選択や同意がなされる近代民主主義のルールができあがりました。

日本では江戸幕府が鎖国政策をとり、徳川綱吉が生類あわれみの令を出していたころでした。